

福島第一原子力発電所現地確認報告書

1 確認日

令和2年4月17日（金）

2 確認箇所

- (1) 新事務本館執務室（机上説明）
- (2) 1／2号機共用排気筒（2号機タービン屋近傍等から確認）

3 確認項目

- (1) 5／6号機共用排気筒放射線モニタにおける一時的な欠測に係る再発防止対策
- (2) 1／2号機共用排気筒解体工事の状況

4 確認結果の概要

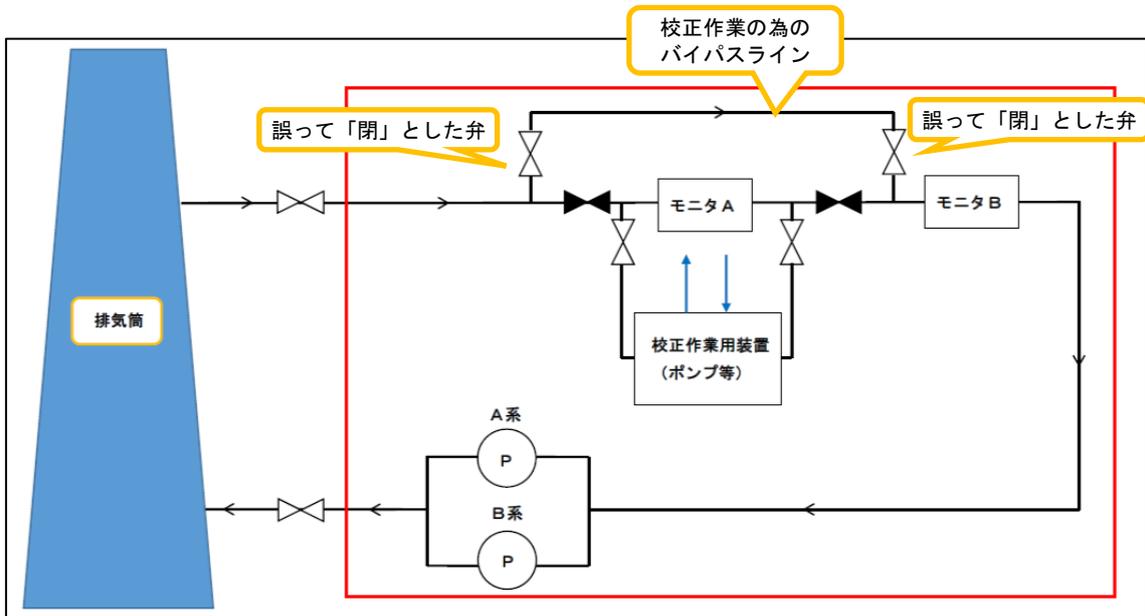
- (1) 5／6号機共用排気筒放射線モニタにおける一時的な欠測に係る再発防止対策について

令和2年3月5日に、5／6号機共用排気筒放射線モニタのサンプルポンプ（B）が自動停止し、同ポンプ（A）が自動起動しない事象が発生したことから、9時52分から10時18分の間、5／6号機共用排気筒放射線モニタにおいて欠測が発生した。

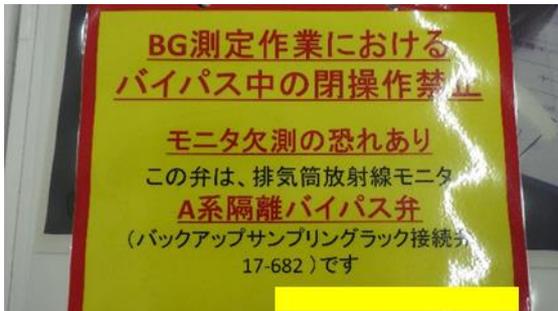
東京電力によると、5／6号機共用排気筒モニタ（A）の校正作業のためにバイパスラインを構成して運転を実施していた際に、誤ってバイパスライン弁を閉じ締切運転となってしまう、ポンプ保護のために同ポンプ（B）が停止したとのこと。また同ポンプ（A）については、同ポンプ（B）と系統が同じで、締切運転状態であることから、こちらもポンプ保護のため同ポンプ（A）が起動しなかったとのことであった。（図1）

本日は、当該事象に係る再発防止対策等を東京電力から聴取した。聴取事項は以下のとおり。

- ・本事象の原因となった弁の誤操作の再発防止対策として、注意喚起表示（写真1）の掲示及びゴムバンドによる弁の固定を実施し、不用意に操作できないようにした。
- ・また、手順書に今回のような作業で不具合が発生した場合の復旧手順を追記した。
- ・水平展開として、使用済燃料プール排気筒モニタの校正作業についても同様の対策を実施する予定である。



(図1) 5 / 6号機共用排気筒放射線モニタ系統概要図
(赤線内は5 / 6号機共用排気筒モニタ建屋内を示す)



(写真1)
注意喚起表示

(2) 1 / 2号機共用排気筒解体工事の状況について

- 1 / 2号機共用排気筒解体工事は昨年8月1日から作業を実施しており、排気筒上部の約60mを23ブロックに分けて解体する計画のうち、20ブロック目の解体が4月15日から開始されたことから状況を確認した。
- ・現地確認時は、排気筒頂部に筒身解体装置が据え付けられ、切断音が聞こえており、作業が実施されていた。(写真2)
- なお、東京電力によると、本日15時40分頃に20ブロック目の解体が完了したとのことであった。
- ・解体された19ブロック目は、2号機原子炉建屋南側のヤードに仮置きされていた。(写真3)



(写真2)
排気筒頂部の状況
12時頃撮影



(写真3)
19ブロック目仮置き状況

- 5 プラント関連パラメータ等確認
本日確認したデータについて、異常な値は確認されなかった。